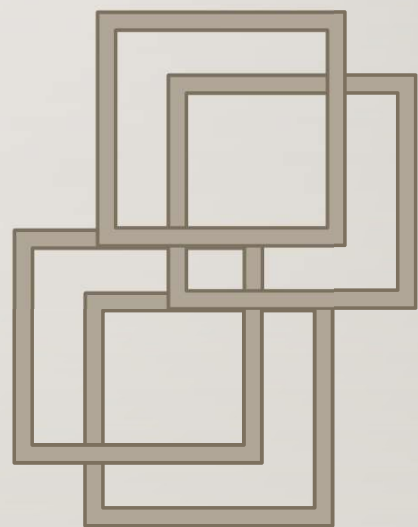


提 言 書

我がままで良い
(ワガママ)

我がまち
八戸



2024年9月

八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議



目次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	政策提言の方向性について・・・・・・・・・・	2
3	提言	
	提言① 若者が#ゆるーくつながれる居場所づくり・・・・・・・・	17
	提言② #私のまちってこんなところ ちょうどいいまち八戸・・・・・・・・	18
	提言③ 若者の#行ってみよう！を応援する・・・・・・・・	19
	提言④ #自分らしく歩く道を、地域で一体となって・・・・・・・・	20
	提言⑤ #体験の格差をなくし、文化・スポーツに富んだまちに・・・・・・・・	21
	提言⑥ 若者主体の市民活動を#八戸モデルへ！・・・・・・・・	22
	提言⑦ #八戸版ライフワーク #地域の人事部で地域に参加・・・・・・・・	23
	提言⑧ #大学を市民の真ん中に 若者があふれるまちに・・・・・・・・	24
4	八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議委員名簿・・・・・・・・	25
5	令和6年度まち魅会議スケジュール・・・・・・・・	25



1 はじめに

八戸市では、市の未来を担う若者や女性にとって魅力あるまちづくりを進めることで、地域全体に活力を生み出し、多様な人材が活躍できる地域社会の実現を目指して、令和4年度に「八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議」を立ち上げました。同会議からは初年度に親と子どもに対する「子育て支援」を中心とした政策を、2年目の令和5年度には「子どもの体験支援」を中心とした政策提言をそれぞれ提出しました。

会議からの政策提言を受けた八戸市では、新規事業やこれまでの事業を拡充するなど、2ケ年で30事業もの取組を実施していることを知り、私たちの声が行政の施策に直接反映されていることに、大きな驚きと喜びを感じると同時に、その責任の重さをひしひしと感じながら、今回の提言作成を進めてきました。

今年度の委員会のメンバーは、委員長・副委員長をはじめ、大半の委員が入れ替わり、多くの新たな委員が加わった中、短期間に市の政策を編み出すという難しいミッションをクリアするため、本来の会議だけでなく、委員同士が自主的に集まって議論したり、メールでの意見交換を頻繁に行い、この度委員10人の思いを提言書として取りまとめることができました。

会議では、個人が輝けるまちや自己実現によって、一人一人が「ウェルビーイング」を実現できるまちにしたい、との意見が複数の委員から出されました。「ウェルビーイング」という言葉が持つ「身体的・精神的に良好な状態」を多くの市民が享受できている状態となることを目指し、会議では、高校を卒業し、進学や就職で親元を突然離れることになった若者が、何を考えて、未来をどう見据えているのかを提言に活かしたいという思いから、ターゲットを高校卒業後の18歳～40歳未満に定めアンケートを実施し、約1,000名の若者から貴重な意見をいただきました。

アンケート結果から、「まちの愛着度が高い人は、自分らしく暮らしている割合が高く、また、総じて幸福度も高い」という傾向があることが分かりました。

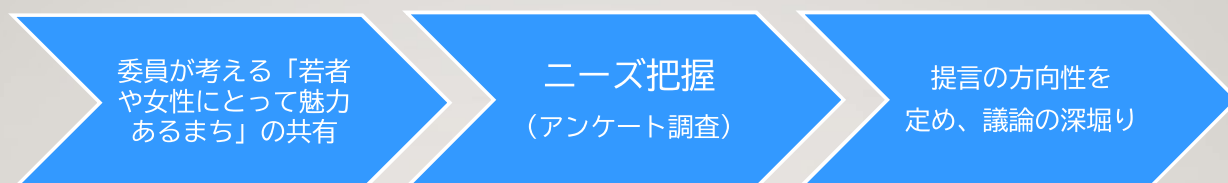
このほか、アンケートを基にした議論から導き出された方向性として、参加するお祭りが盛んな八戸はもともと多くのコミュニティが存在しているのではないかと、それら既存のコミュニティがもっと相互に連携し、共創することが大切なのではないかと、まち全体が「何か面白いことが起こっている！」という空気に包まれていることが重要ではないかと、といった意見のもと、「若者の自己実現」という切り口で、この度、若者と女性にとって魅力に溢れるまちとなるための8つの提言を取りまとめました。

八戸市長はじめ市職員の皆さんには、私たち委員10人の提言を一つでも多く施策に反映していただき、私たちのまち八戸の未来が、明るく輝くまちとなることを心から願っております。

2 政策提言の方向性について

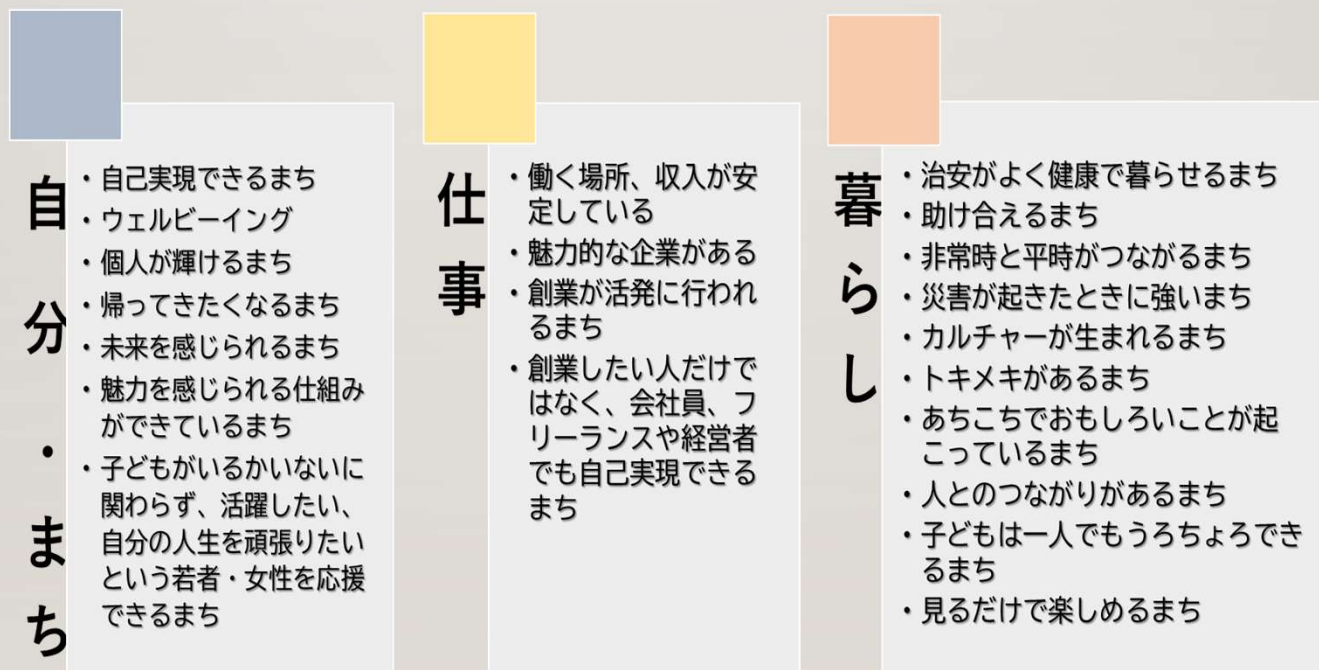
■政策提言の方向性を定めるプロセス

政策提言にあたり、委員が考える若者や女性にとって魅力あるまちについて、ある程度の方向性を定めた上で、アンケート調査を行い、調査で得られた結果から、提言の方向性を定め、議論の深掘りをし、提言につなげます。



■「若者の自己実現」を切り口とするまでの意見の共有

委員が考える若者や女性にとって魅力あるまちについて、現在問題となっていることや、理想とする未来像の意見を出し合ったところ、大きく3つの項目に分けられ、これらから共通した「若者の自己実現」という切り口で政策提言の方向性を決めました。



■アンケート調査

(1) 「若者意識調査」アンケート調査概要

会議で出された意見に対する仮説を検証するため、以下のとおりニーズ調査を行いました。

	一般用（18歳以上40歳未満）	学生用
調査対象者	市内に住所を所有する18歳以上40歳未満の男女 1,500名	市内の高等教育機関に通学する学生 約2,500名
調査方法	対象者へ郵送配付し、WEB回答及び郵送回収により実施	各高等教育機関より、メールにて配付、WEB回答により実施
設問数	26問	27問
調査期間	令和6年6月17日～7月1日	

【アンケート回答状況】

対象者	配付数	回答数	回答率
一般用	1,500	588	39.2%
学生用	2,500	410	16.4%
合計	4,000	998	25.0%

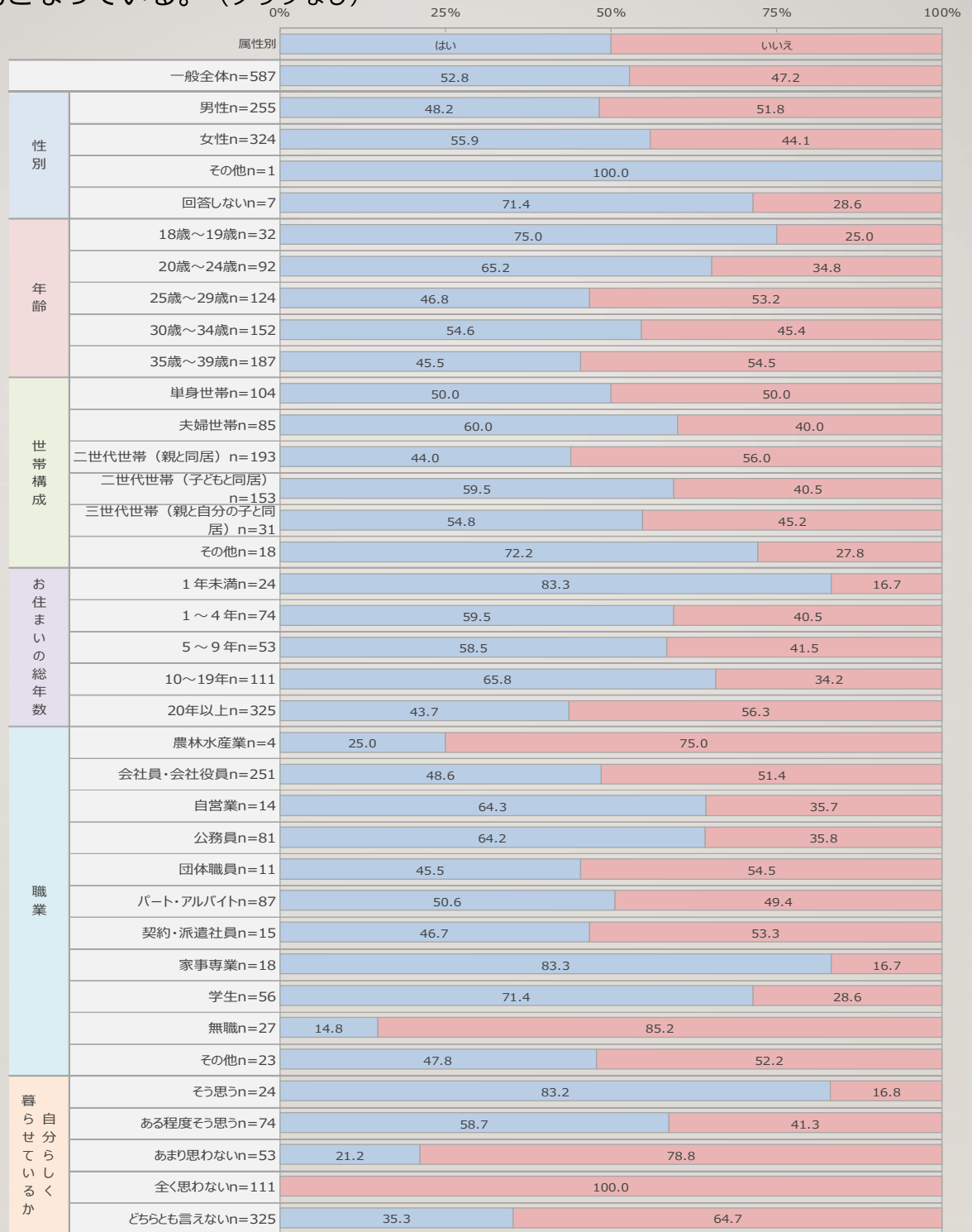
(2) アンケート調査から分かったこと

【一般編】 アンケート調査から導き出された特徴的な傾向は以下のとおりです。

- 自分らしく暮らしていると思っている人の半数以上は、家族・友人・恋人を重要視している。
- 幸せだと感じている割合が高い年齢層は20歳～24歳となっており、35歳～39歳は割合が低い。
- 働く上で重要視していることについては「給料」（43.9%）が最も多く、次いで「人間関係」（21.8%）となっている。
- 子どもがいない人は、休日に「趣味」をする人が多く、子どもがいる人は「家族団らん・家族サービス」をする人が多い。
- 八戸市にあればよいと思うものについて、「公園・商業施設・文化施設・娯楽施設」（50.5%）が最も多く、次いで「魅力的な観光地（名所・自然・テーマパーク）」（20.7%）となっている。
- 八戸市に住んでいる期間が長くなるごとに「公園・商業施設・文化施設・娯楽施設」が欲しい割合が高くなる。
- 人と関わるような活動の中で、ボランティア活動をしたことのある割合が高いのは18歳から24歳までであり、参加のきっかけは知人からの勧誘や学校の授業が多い。
- お祭りなどの伝統芸能に挑戦したい人はどの年代にも多く、さらには居年数が1年未満の人は挑戦したい割合が高い。

【5～10年後の自身の姿は明るいと思うかの属性別比較】グラフ1

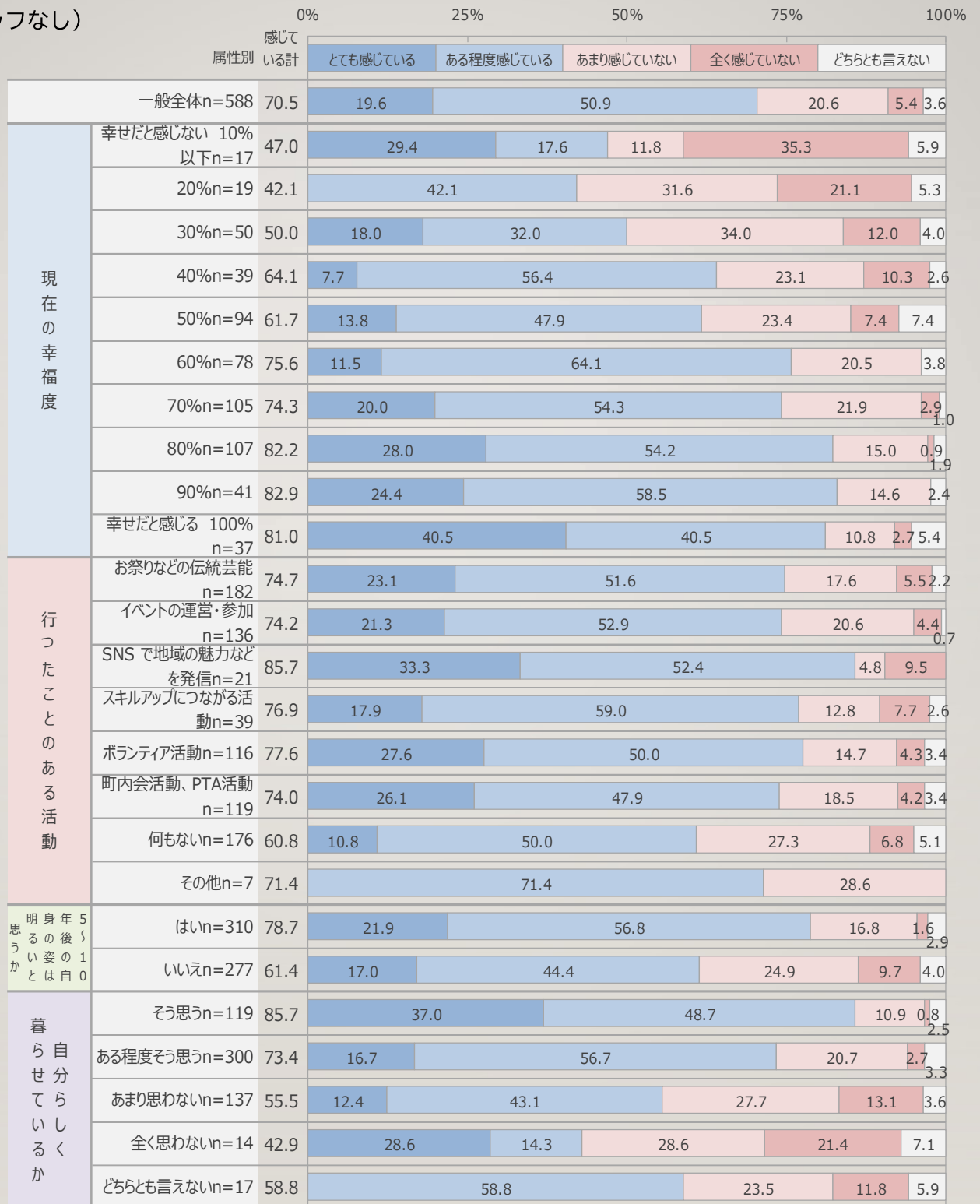
- 自分らしく暮らせていると思う人は、明るいと思う割合が高い。
- 自分らしく暮らせていないと思う人は、全ての人が5～10年後の姿は明るくないと回答している。
- 自分らしく暮らせているか、どちらとも言えない人の64.7%が5～10年後の姿は明るくないと回答している。
- 5～10年後の自身の姿が明るいと思う理由について、「家族や友人、恋人など大切な人がいるから」が74%と最も多く、次いで「打ち込める趣味があるから」が22.4%となっている。（グラフなし）



【八戸への愛着度の属性別属性比較】グラフ2

- 現在の幸福度に比例して相対的に愛着度は増加している。
- 自分らしく暮らせている人は愛着度が高い。SNSで地域の魅力などを発信したことがある人（85.7%）やお祭りなどの伝統芸能へ参加したことがある人（74.7%）は愛着度が高い。
- 愛着度を感じる理由としては、「八戸に住み慣れているから」（76.1%）がと最も多く、次いで「家族や親族、友人や知人が多い」（44.6%）となっている。

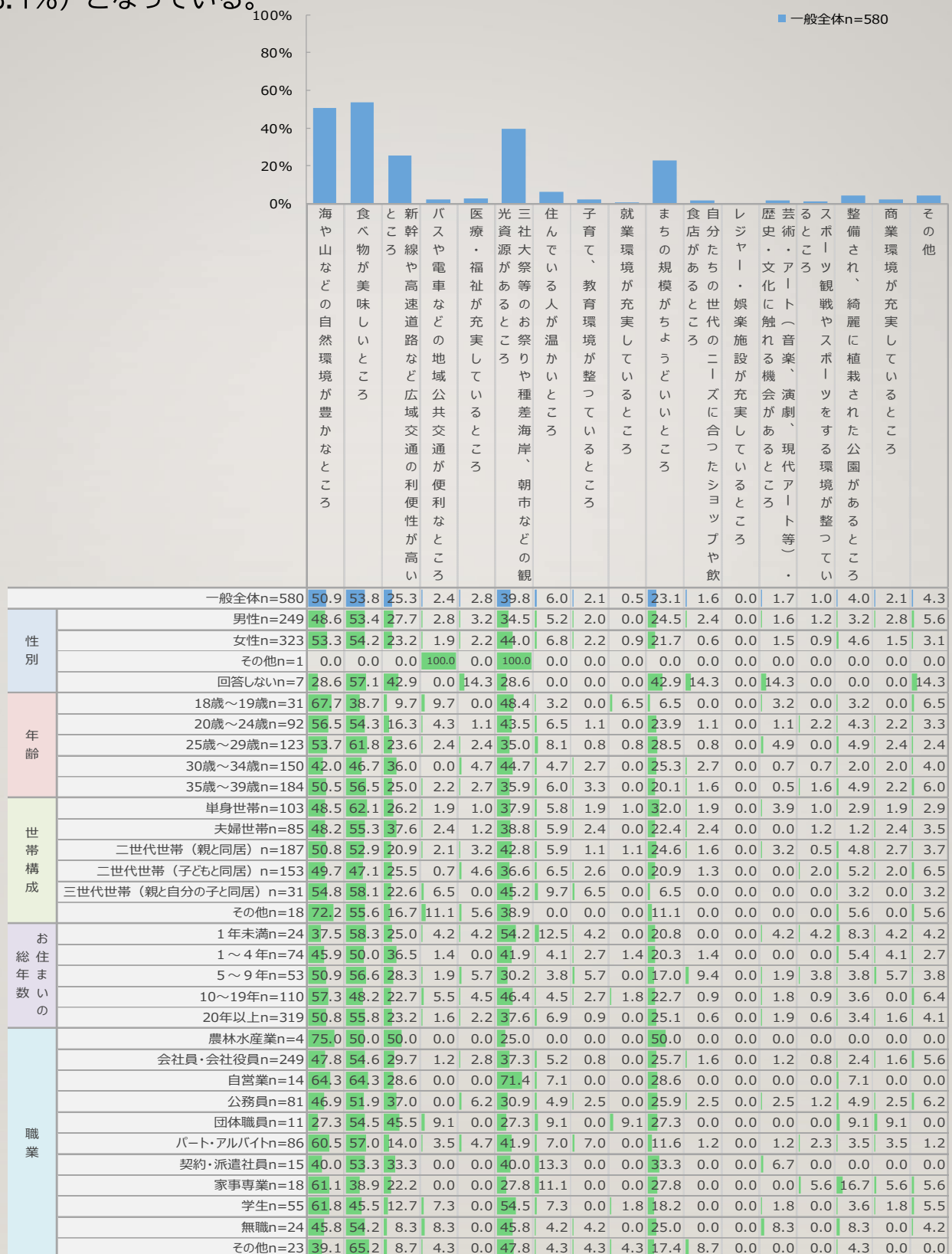
（グラフなし）



※感じている計：「とても感じている」+「ある程度感じている」

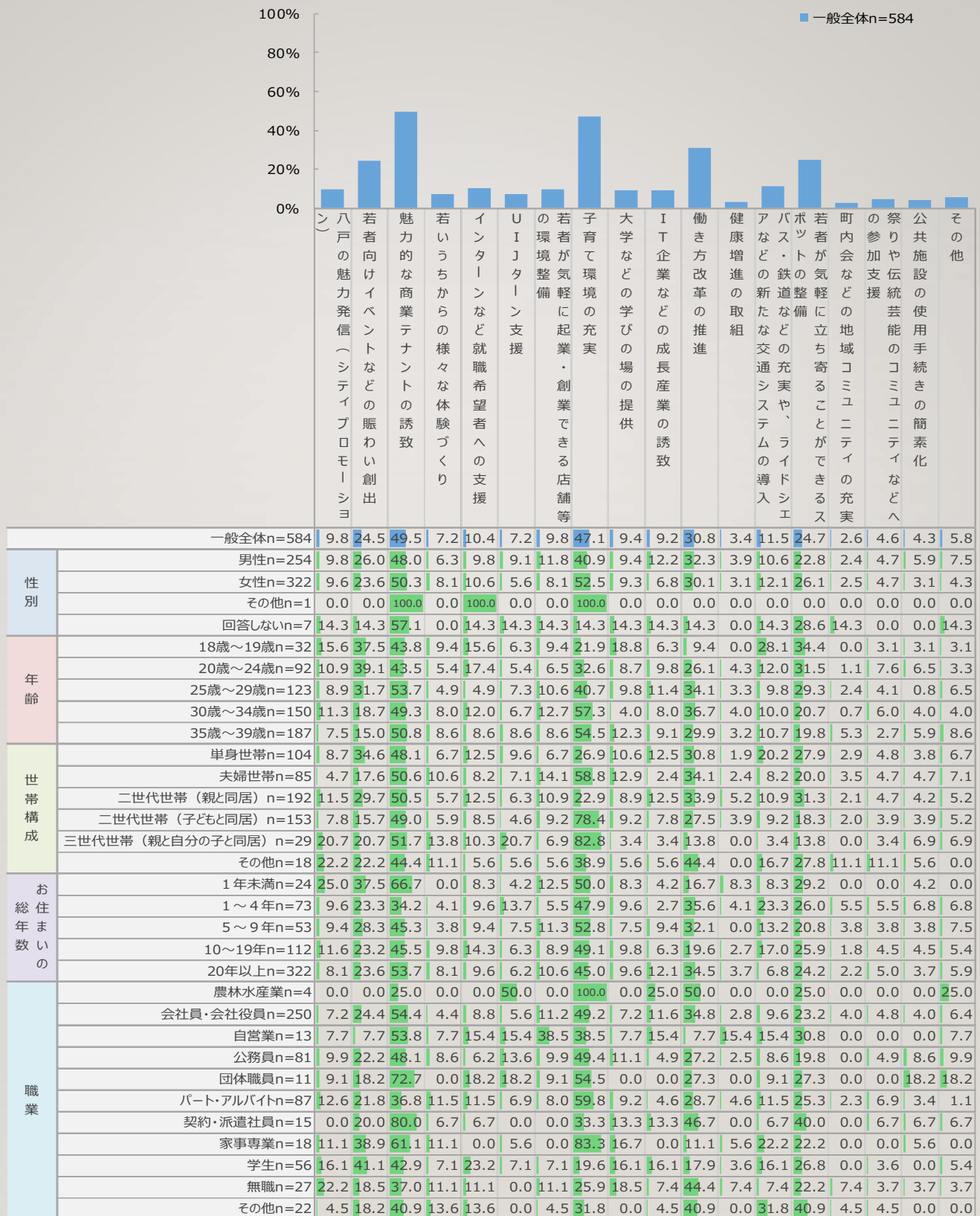
【八戸の魅力の属性別比較】（グラフ3）

→「食べ物が美味しいところ」（53.8%）が最も高く、次いで「海や山などの自然環境が豊なところ」（50.9%）、「三社大祭等のお祭りや種差海岸、朝市などの観光資源があるところ」（39.8%）、「新幹線や高速道路など広域交通の利便性が高いところ」（25.3%）、「まちの規模がちょうどいいところ」（23.1%）となっている。



【市役所が力を入れるべきことの属性別比較】グラフ4

- 「魅力的な商業テナントの誘致」（49.5%）と「子育て環境の充実」（47.1%）が高い。
- 「若者向けイベントなどの賑わい創出」や「八戸の魅力発信」について、居住年数別でみると、1年未満の人が割合が高い。

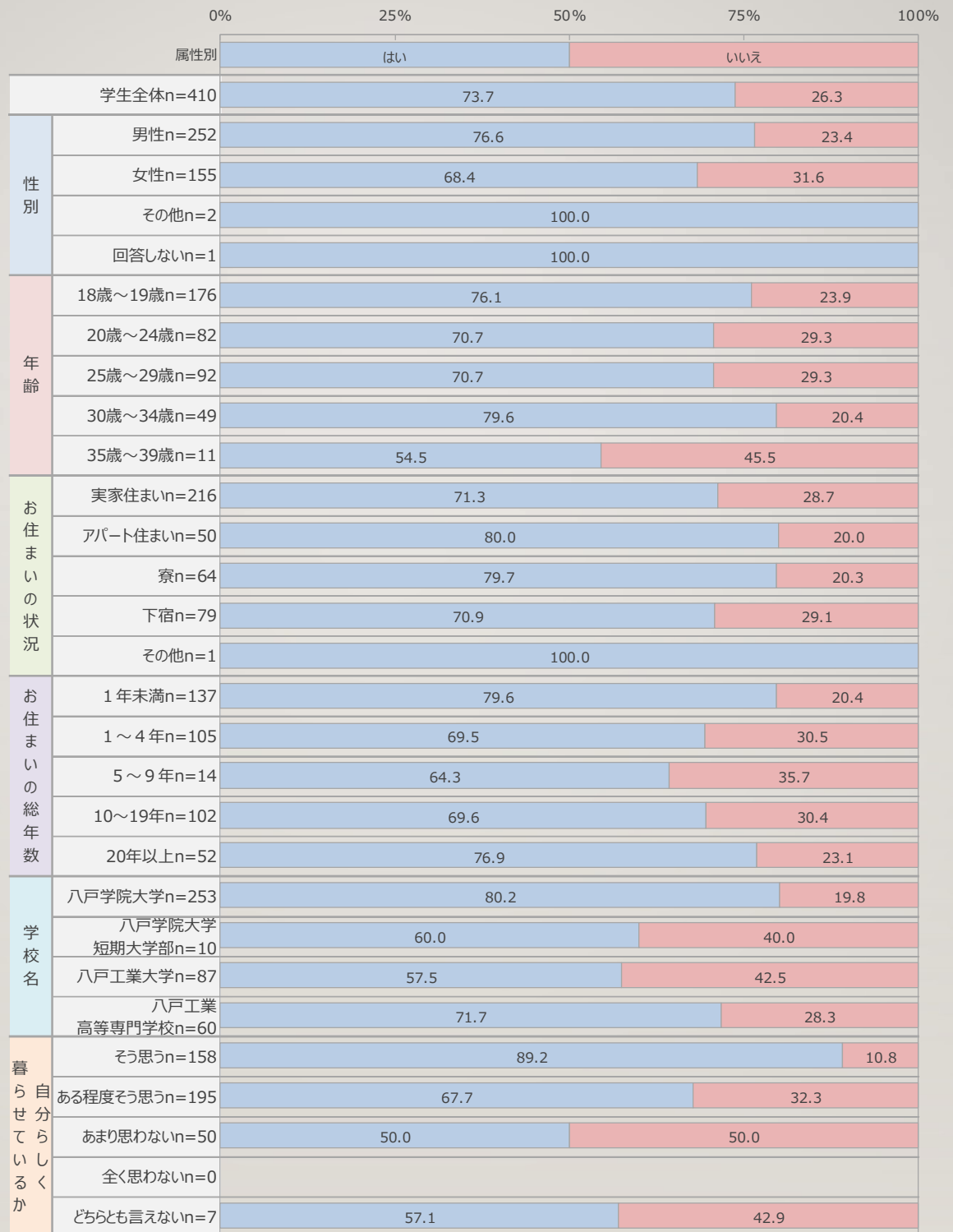


【学生編】 アンケート調査から導き出された特徴的な傾向は以下のとおりです。

- 自分らしく暮らせていると思っている（そう思う・ある程度そう思う）人は86.1%で、一般の71.4%より高くなっている。
- 自分らしく暮らしていると思っている人の半数以上は、趣味・余暇活動を重要視している。
- 八戸市の居住年数が長い人は、幸せだと感じている割合は高い。
- 働く上で重要視していることについては「給料」（27.8%）が最も多く、次いで「人間関係」（26.6%）となっている。
- 自分らしく生きていくために、最も重要だと考える人は「家族」（42.2%）で次いで「友人」（37.8%）となっている。
- 休日には「趣味」（77.6%）をする人が多く、一般で多かった「家族団らん・家族サービス」が減少（38.8%→7.6%）し、「デートをする」（13.2%）割合が高くなる。
- 八戸市にあればよいと思うもの
 - 「魅力的な観光地（名所・自然・テーマパーク）」（28.5%）と「公園・商業施設・文化施設・娯楽施設」（28.3%）が多くなっている。
 - 車を持たない学生も多いためか、目的地へ行くための交通手段を求める割合（10.7%）が一般と比較して多くなっている。
- 人と関わるような活動の中で、ボランティア活動をしたことのある割合が一般の19.9%と比較して39%と高くなっている。参加のきっかけは、「知人からの勧誘」（33.7%）や「学校の授業」（30.7%）、「自発的に」（26.1%）が多い。
- 挑戦してみたい活動については、「イベントの運営・参加」（26.1%）や、「お祭りなどの伝統芸能」（19.8%）の割合が高い。

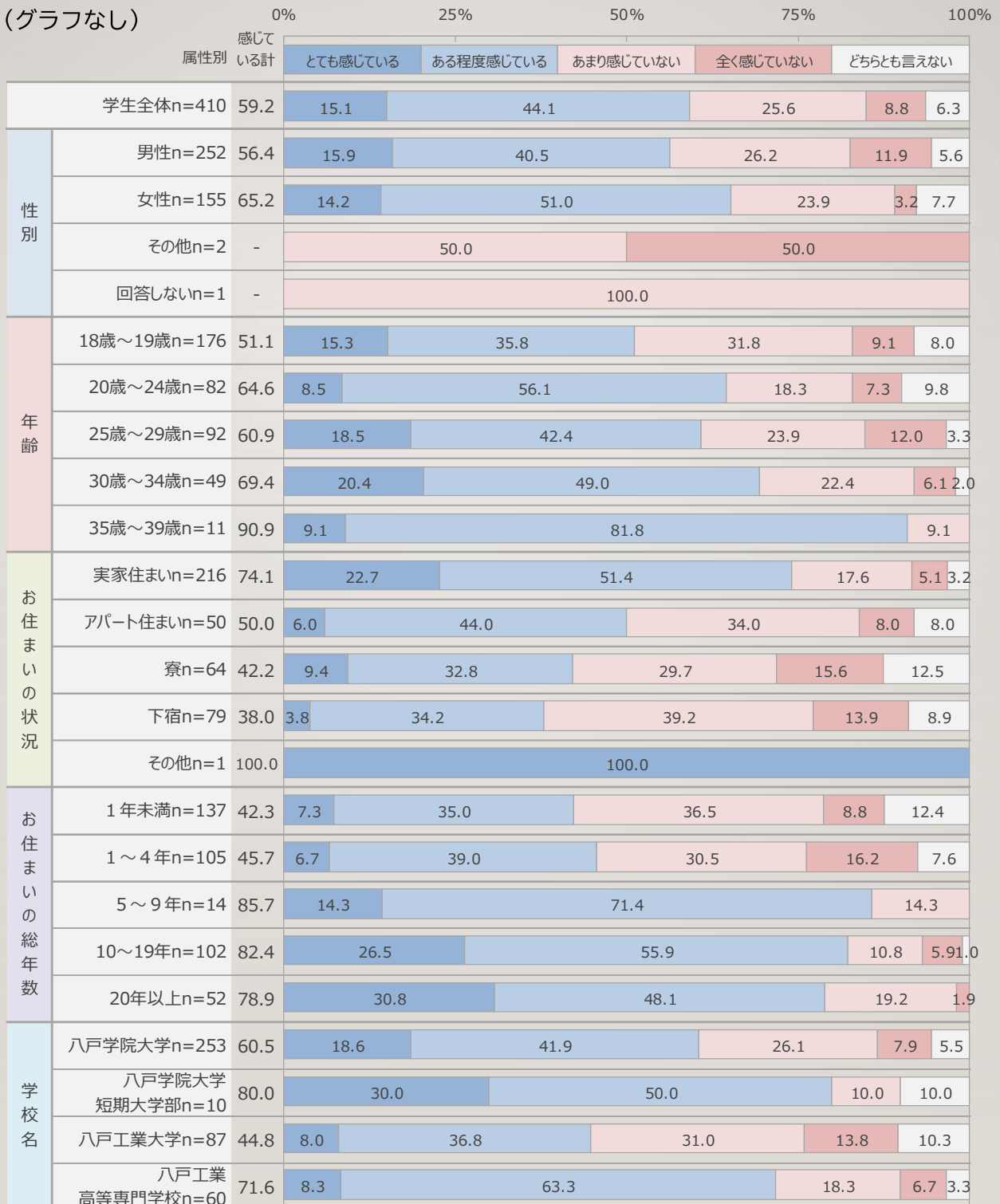
【5～10年後の自身の姿は明るいと思うかの属性別比較】グラフ5

- 自分らしく暮らせていると思う人は、明るいと思う割合が89.2%と高い。
- 自分らしく暮らせているか、どちらとも言えない人でも57.1%の人が明るいと回答している。
- 5～10年後の自身の姿が明るいと思う理由について、「家族や友人、恋人など大切な人がいるから」が60.1%と最も多く、次いで「打ち込める趣味があるから」が28%となっている。（グラフなし）

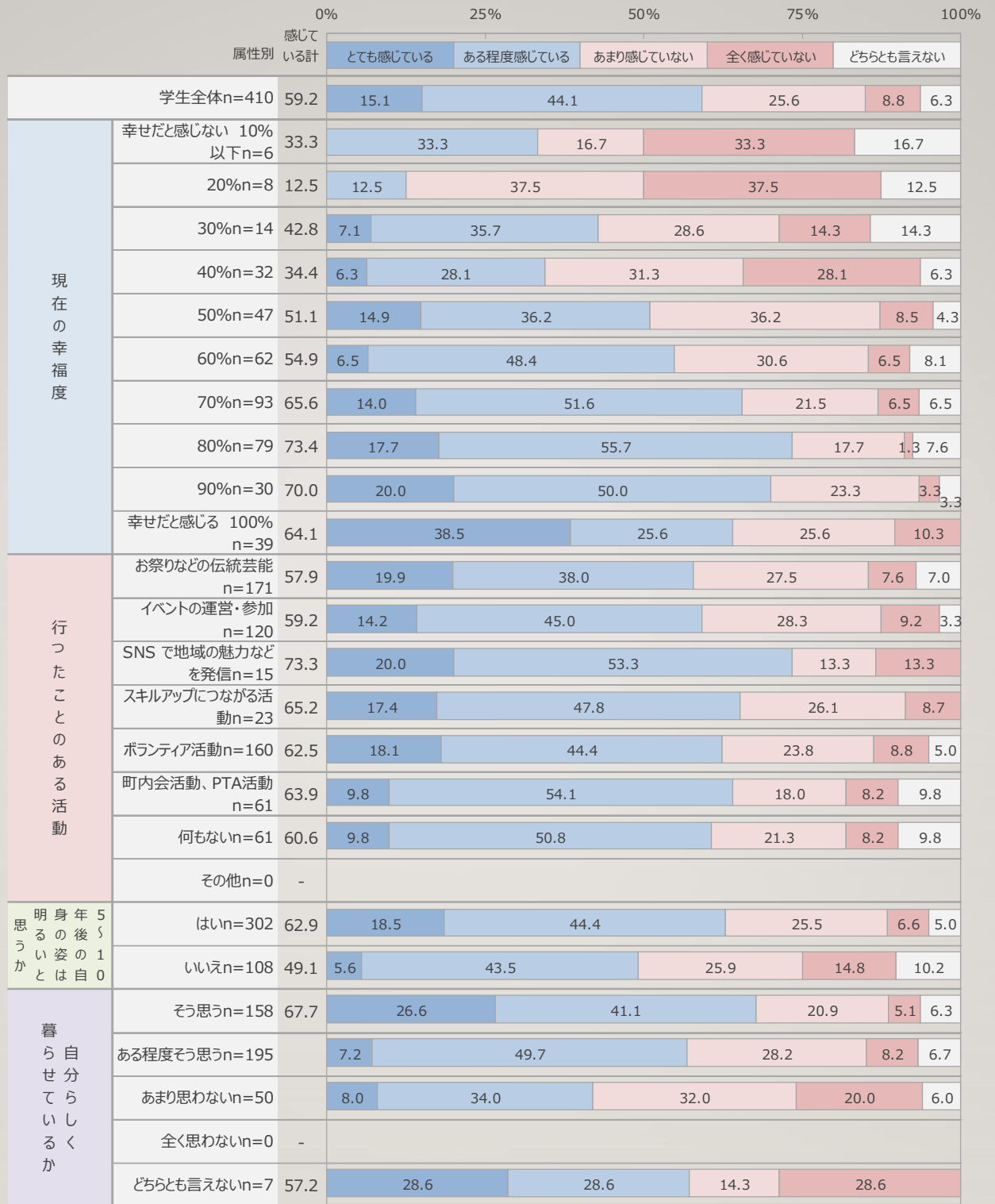


【八戸への愛着度の属性別比較】グラフ6-1

- 愛着度は一般と比較して全体的に低い。
- 自分らしく暮らせている人は愛着度が高い。
- SNSで地域の魅力などを発信したことがある人（73.3%）やスキルアップにつながる活動（65.2%）を行ったことがある人、ボランティア活動（62.5%）に参加した人は愛着度が高い。
- 愛着度を感じる理由としては、「八戸に住み慣れているから」（55.5%）が最も多く、次いで「家族や親族、友人や知人が多い」（36.6%）となっている。
（グラフなし）

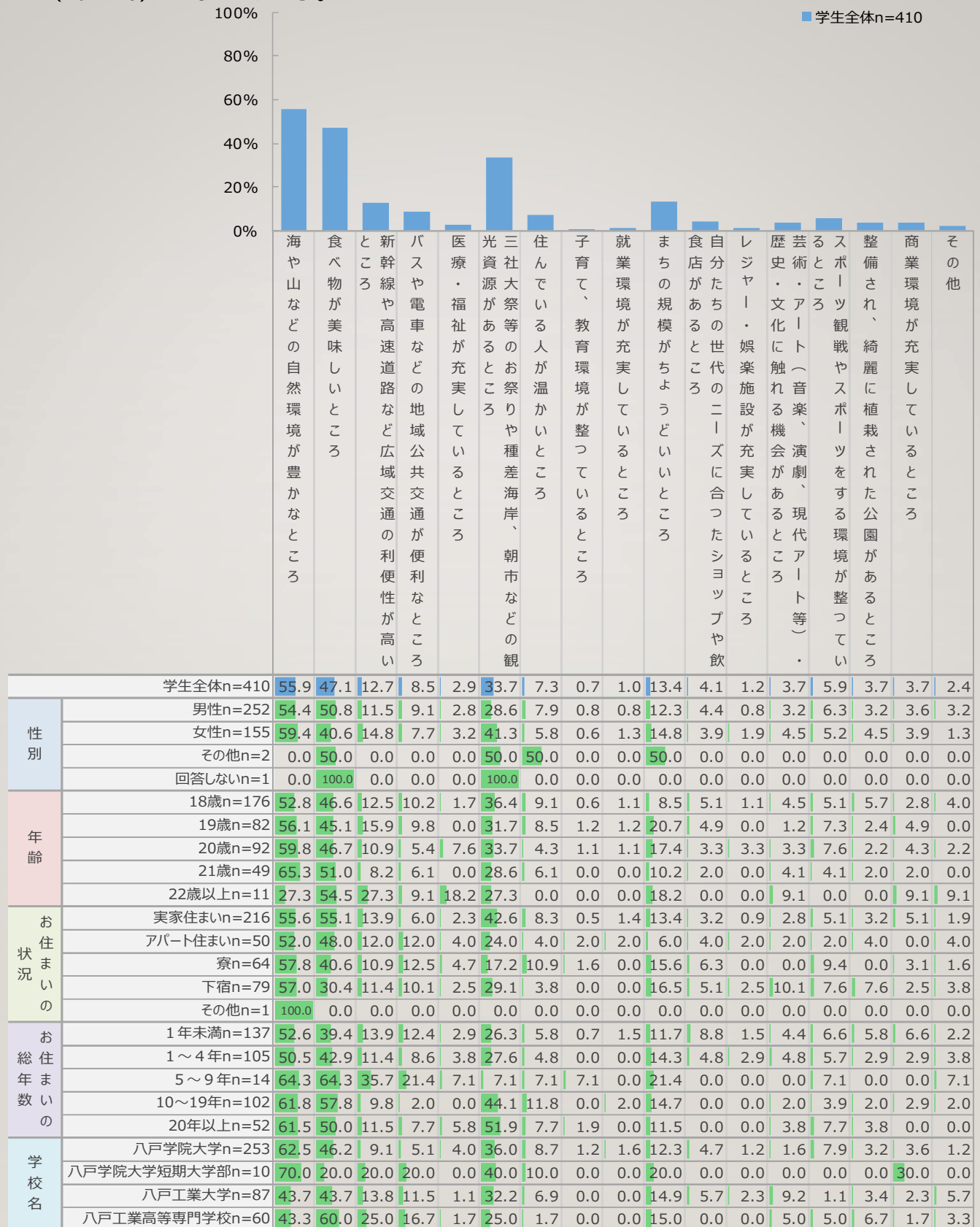


【八戸への愛着度の属性別比較】グラフ6-2



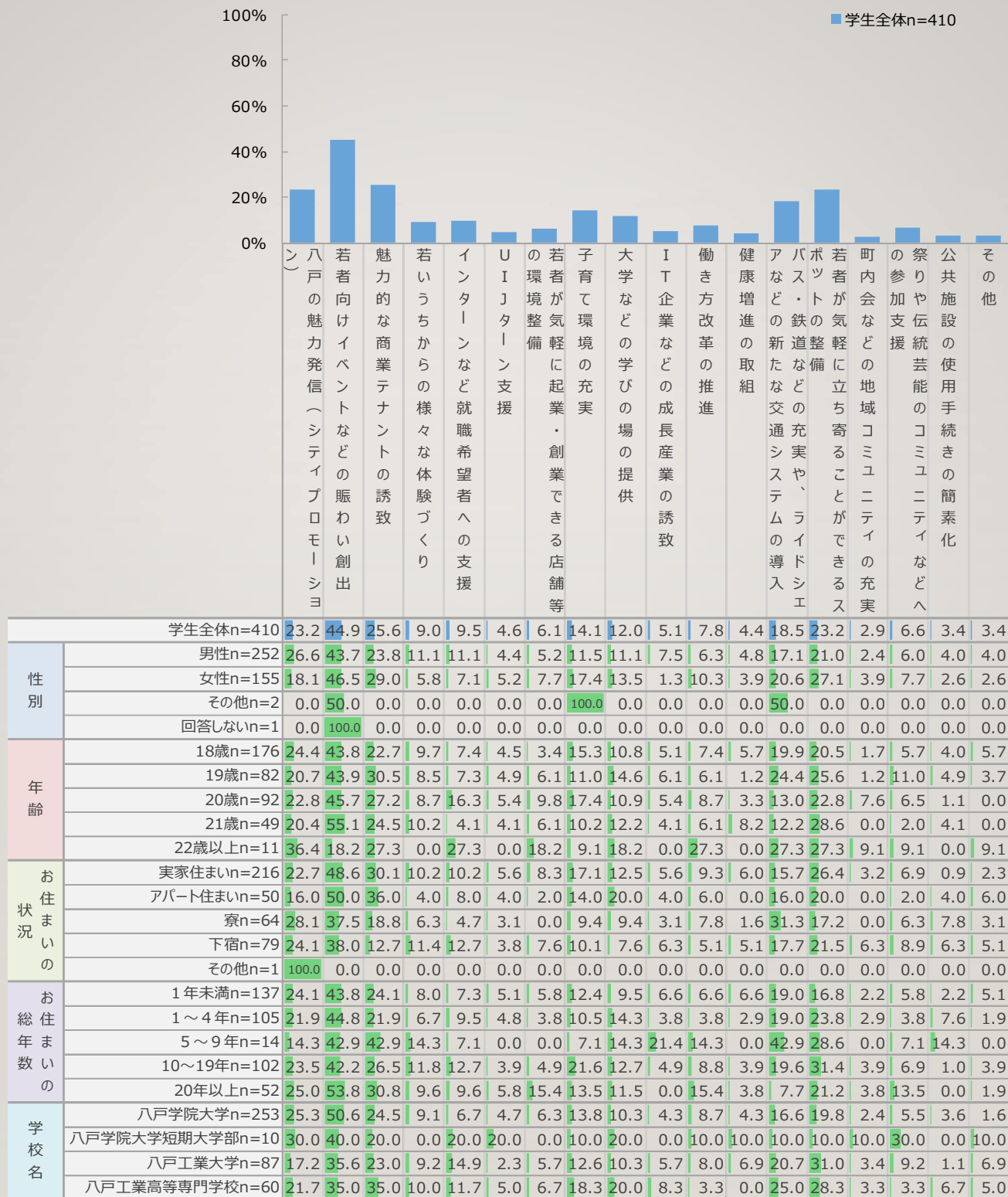
【八戸の魅力の属性別比較】グラフ7

→ 「海や山などの自然環境が豊なところ」 (55.9%) が最も高く、次いで「食べ物が美味しいところ」 (47.1%)、「三社大祭等のお祭りや種差海岸、朝市などの観光資源があるところ」 (33.7%)、「まちの規模がちょうどいいところ」 (13.4%) となっている。



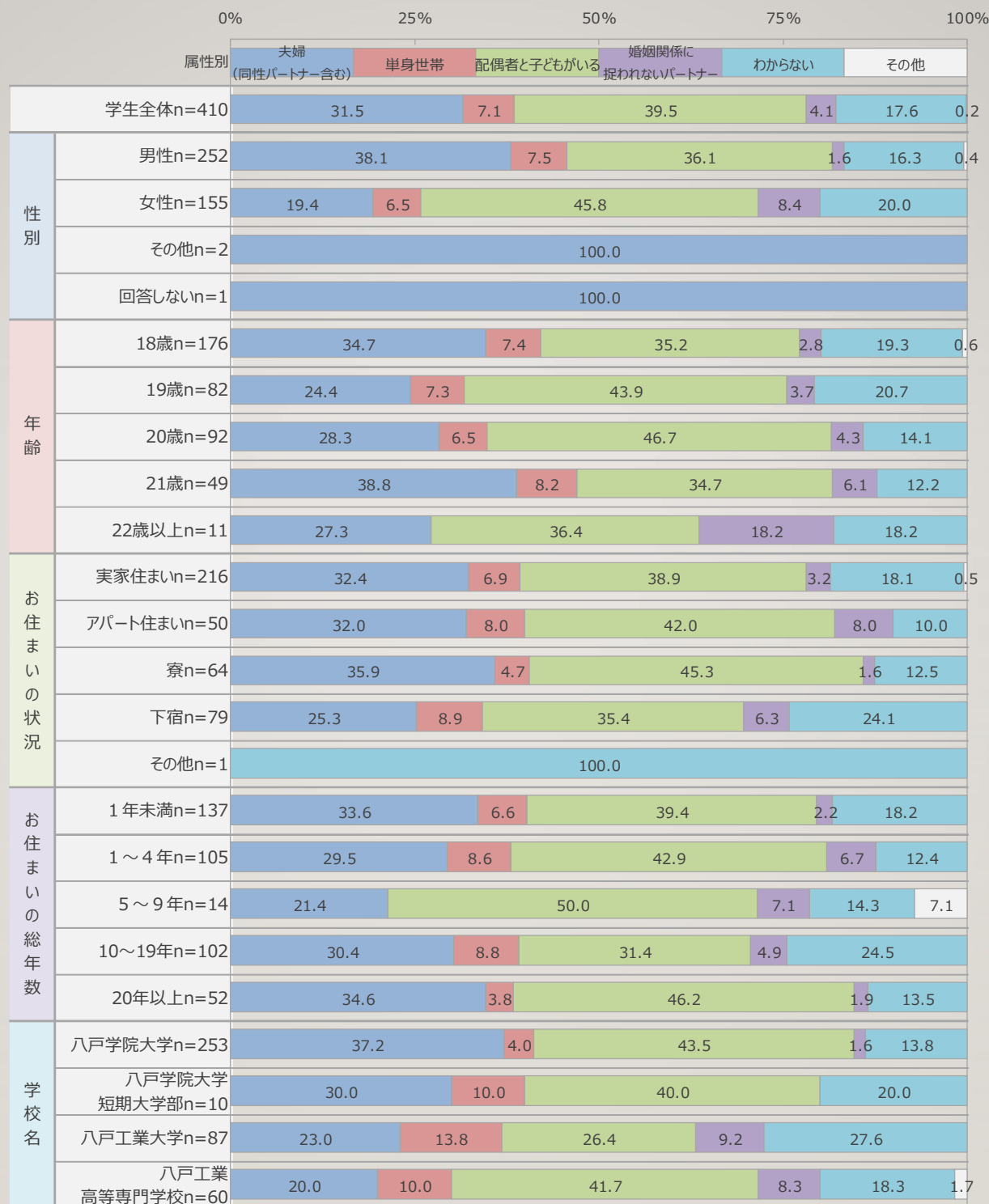
【市役所が力を入れるべきことの属性別比較】グラフ8

- 「若者向けイベントなどの賑わい創出」（44.9%）や「魅力的な商業テナントの誘致」（25.6%）、「若者が気軽に立ち寄ることができるスポットの整備」（23.2%）が高く、活動場所を求めていることがわかる。
- 「バス・鉄道などの充実や、ライドシェアなどの新たな交通システムの導入」については、寮に住んでいる人が望んでいる割合が高い。



【将来の家族構成の属性別比較】グラフ9

→ 将来の家族構成については、「配偶者と子どもがいる」が39.5%と最も高く、次いで「夫婦（同性パートナー含む）」が31.5%となっている。



アンケート調査によって見えてきたもの

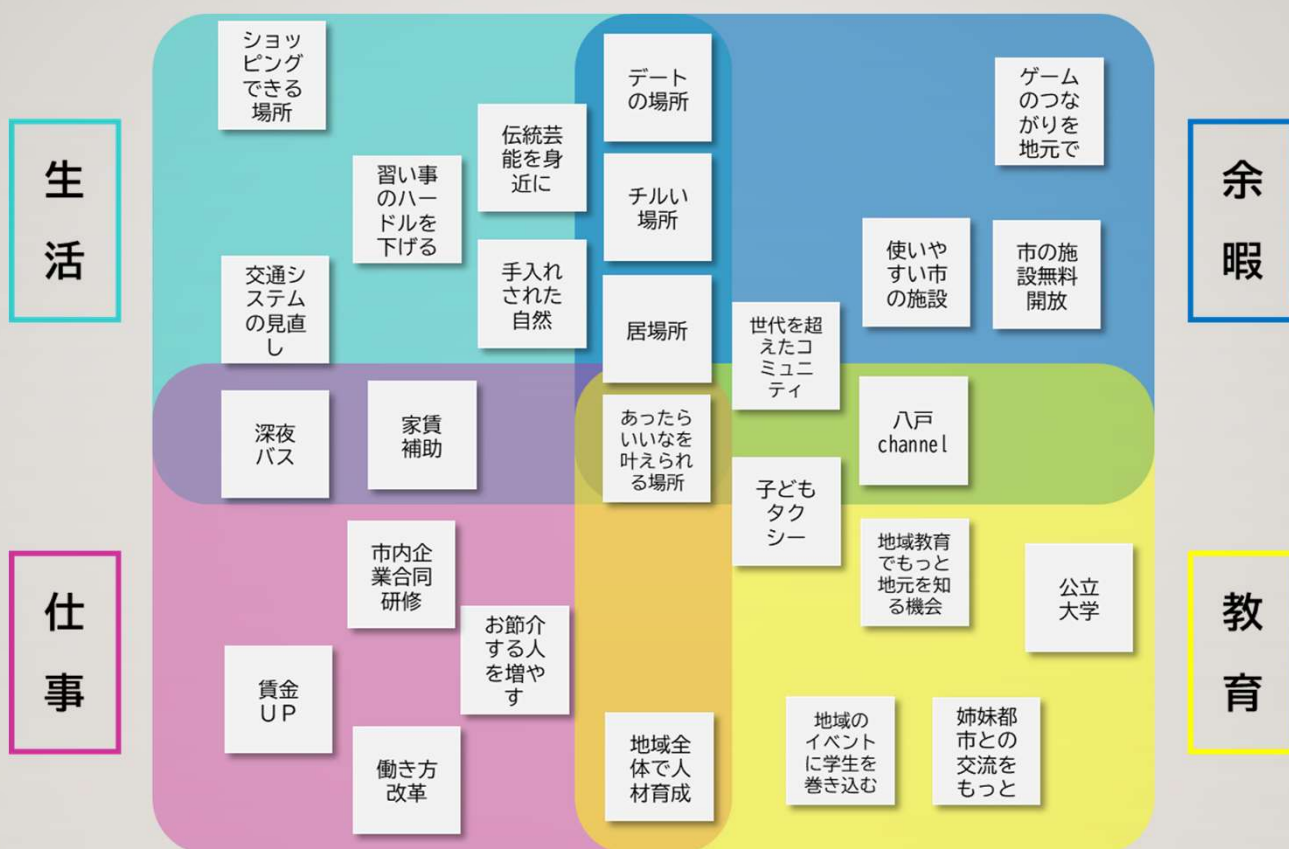
	委員が考える若者や女性にとって魅力あるまち	アンケートで分かったこと	見えてきたもの
自分・まち	個性を認め個人が輝き、自己実現できるまち	魅力的なお店	若者それぞれが、自分らしく生きたいと思っており、気軽に立ち寄れるスポットやつながる居場所を求めている
	魅力や未来を感じられる仕組みがあるから、帰ってきたくなるまち	若者向けイベントをやってほしい	
	子どもの有無に関わらず、活躍したい、自分の人生を頑張りたいという若者・女性を応援できるまち	魅力発信に力を入れてほしい	
仕事	働く場所、収入が安定していて魅力的な企業があるまち	気軽に立ち寄れるスポットが欲しい	まちのことをもっと知りたいという気持ちや、まちに誇りを持ちたい若者が多い
	創業が活発に行われ、会社員、フリーランスや経営者など、誰もが自己実現できるまち	給料を上げて休みが欲しい	
		キャリアアップできる環境	
暮らし	コミュニティが活発になることで、非常時でもつながり、助け合えるから、災害に強くなるまち	福利厚生の実	伝統芸能に参加してみたい気持ちを社会で後押しをしてほしいと考えている
	治安がよく、子どもが一人でもうろちよろでき、誰もが健康に暮らせるまち	子育て環境の実	
	カルチャーもあり、トキメキもあり、あちこちでおもしろいことが起こっているまち	中心街が若者で賑わってほしい	
		新たな交通システムを導入すれば行動しやすくなる	中心街が若者で賑わっていることを望んでおり、充実した交通システムがあれば、中心街に行きやすくなるという声が多い
		お祭りに参加してみたい人が多い	

■若者の自己実現を叶えるには

「若者の自己実現」の切り口とアンケート結果を基に以下の4つの要素に分類分けをし、その要素ごとに、自己実現につながる機会をどのように創出できるのかを整理し、議論しました。

デジタル化の急速な発展や価値観の多様化により、これらに対応しながら、個人の個性を尊重しつつ、自分の存在意義を感じながら、自分で幸福を切り拓いていくことが重要なのではないのでしょうか。

そのためには、失敗を恐れずに「やってみる」一歩と、どんな結果になろうと自分を認める「それでいい」という肯定感により、大幅な進歩はなくとも、少しずつ自己実現が叶うための一助となることを願います。



☆令和6年度政策提言のテーマ

「我がまま（ワガママ）で良い我がまち八戸」

3 政策提言

提言① 若者が#ゆるーくつながれる居場所づくり

■困りゴト■

- ・遊ぶ場所の選択肢が少ない
- ・お金をかけずに遊ぶ場所や集まれる場所が少ない
- ・デートをする場所がない
- ・※チルい公園がない
- ・コミュニケーションに自信を持ってない若者が多い
- ・魅力的なまちが何なのか、そもそも地域とは何か、知らないこと、分からないことが多い

(※チルい:くつろぐ、ゆったりする)

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・自分らしくいることで、そこが自分の居場所になれるようなまち
- ・いつでも帰って来られる雰囲気包まれたまち
- ・自然に人が集まり、自然とコミュニティが生まれるまち
- ・同世代が集まっているまち(賑やかな場所、店)⇒安心感、居場所
- ・場所やモノ、コトなど、眺めているだけで楽しめるまち
- ・コミュニティが相互に連携して競争ではなく共創していくまち

■八戸のイマに必要なコト■

① 若者の居場所を意図的につくってみる

- ・八戸版ラウンドワン バスケット、卓球、スケボー、BMXなどができる場所をつくる
- ・中心街で野外映画会、ゲーム投影
- ・美術館を創作活動の場に
- ・長根公園をくつろぎスポットに！～桜、イルミネーション、芝生や階段を利用してYSアリーナの外観が眺められる～
- ・若者限定！月1回マチニワ開放で表現の場を

② 出会いの場（共通の趣味、サークル）をつくる

- ・コミュニケーション道場
- ・メンター(指導者、助言者)養成

提言② #私のまちってこんなところ ちょうどいいまち八戸

■困りゴト■

- ・遊ぶ場所を欲しいと思っている人は、情報として知らないだけではないか
- ・商業施設を増やすことが解決の糸口になるのか
- ・不満ばかりで満足するための方法を知らない人が多いのでは
- ・誰に何を聞いていいのかよくわからず、知らないまま、不満足
- ・情報は知っている人だけが上手に使っている
- ・魅力的なまちが何なのか、そもそも地域とは何か
- ・転勤等で初めて八戸に来た人が頼れる窓口がない

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・既存の魅力の発信！魅力の活かし方
- ・八戸の魅力が常にSNSであふれている
- ・自分のまちを魅力あるまちだと誇りをもつことができる

■八戸のイマに必要なコト■

① 自分で発見、八戸っていいところ

- ・八戸の魅力動画コンテストの実施
- ・八戸で楽しんでいる人を八戸版ロールモデルとして、楽しみ方を発信
- ・ライフステージ別でオススメの八戸のスポットやお店の紹介、休日の過ごし方の発信
- ・プル型の発信からプッシュ型の発信へ！

② 分からないことはここ見て、若者窓口一本化

- ・分からないことがSNS上で聞ける仕組み

③ 体を動かそう、場所はここ！

- ・体育施設を定期的に開放しSNSで発信！「来週はここで卓球を！」

④ 自分が育ったまちに友人と一緒に

- ・帰省の際は、友人も一緒に、クーポンで八戸を知る

提言③ 若者の#行ってみよう！を応援する

■困りゴト■

- ・公共交通を使っても乗り換え等で一苦労
- ・坂が多く自転車が乗りづらい
- ・子どもの習い事などの送迎で親が疲弊している
- ・大学等から中心街や目的地までの距離があり、バス代が高い

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・子ども一人でも公共交通機関を利用して目的地に行くことができる
- ・治安が良いまち
- ・行きたいところに簡単にアクセスできる
- ・学生や若者の挑戦したい！という気持ちを後押しするまち
- ・若者が自己実現できる場を、まち全体で醸成できる

■八戸のイマに必要なコト■

① 公共交通機関をもっと気軽に使える仕組みづくり

- ・ハチカの市内乗り放題チケットを全学生に配布
- ・子どもタクシー制度で移動が簡単に
- ・歓送迎会シーズン、忘新年会シーズンには夜間バス
- ・バスとライドシェアのいいとこどり！エリアにわけた八戸版ライドシェア
- ・「1日よくばりパック」：観光、食事情報、公共交通をAIで簡単ナビゲート

提言④ #自分らしく歩く道を、地域で一体となって

■困りゴト■

- ・8サポmeets※では、起業家を創出するためのプラットフォームはつくられたが、参加をするためのきっかけづくりまでは手が届いていない
- ・起業しても、地域内の繋がりがなく、孤立状態の若手起業家が多い
- ・既存の行政サービスが当てはまっていないという感覚の若者や女性が多い

※起業・創業の支援体制を強化のために、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター(8サポ)」内に構築された起業支援プラットフォーム

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・生業を作ることを地域で応援しあえるまち
- ・社会変化に対応し、地域で活躍する人材が多くいるまち
- ・段階的に自立を応援できるような仕組みがある
- ・若者が行政へアドバイスするような機会がある
- ・創業したい人、会社員、フリーランスや経営者でも自己実現できるまち
- ・官民がうまく連携する形で、継続できるような支援

■八戸のイマに必要なコト■

① 気軽に起業をしようと思える環境づくり

- ・8サポmeetsを広く知ってもらう
- 起業家支援プラットフォーム事業の長期的な支援
- ・ラフに異業種、多世代、肩書が関係ないごちゃまぜのパーティを定期開催

② 若者の困りゴトの解決は若者で、みんなでつくる政策

- ・行政サービスや公共施設のあり方などを若者で考える機会の創出(市役所若手職員も参加)

③ 市営住宅の入居条件を緩和して若者に貸し出す(団地を学生の下宿に)

- ・単身で住む若者の住まいの補助
- ・団地の1階をコミュニティゾーンにする

④ チャレンジショップの設置

- ・小規模や短期間でも何かをやってみたい若者へ安価で出店できるような場所

提言⑤ #体験の格差をなくし、文化・スポーツに富んだまちに

■困りゴト■

- ・体験の格差
(親が文化・スポーツ活動に参加していないこどもは参加のハードルが高い)
- ・文化の継承が思うようにいかない
- ・文化・スポーツ団体の自立した運営
- ・担い手不足による地域コミュニティの衰退
- ・文化活動を鑑賞する機会がない、スポーツ活動を始める方法が分からない
- ・伝統芸能が分かりづらい
- ・気軽に運動できる場所がなく、公共施設の借り方が複雑
- ・学校や公民館等の施設のリアルな使用状況がわからない

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・活動を通して生まれる活発なコミュニケーション
- ・誰もが文化活動やスポーツ活動に参加できるまち
- ・文化・スポーツ団体が補助金などに頼らず自立して活動が継続できる

■八戸のイマに必要なコト■

① 八戸芸術部の創立

- ・祭り部、三社大祭部、えんぶり部など

② 伝統芸能の理解度向上

- ・伝統芸能そのものを知る機会を増やす

③ 文化・スポーツの情報はココ！情報集約

- ・文化・スポーツ団体の活動状況や申込み方法が一目でわかる

④ 学校や公民館の施設と、イマを簡単開放

- ・施設をスマートロックとキーボックスで管理
- ・使用状況のイマをアプリで管理

提言⑥ 若者主体の市民活動を #八戸モデルへ！

■困りゴト■

- ・市民活動団体の多くは、高齢者が主体であることが多い
- ・若者主体の活動団体の母数が少ない
- ・若者がひきつけられるようなコミュニティや活動が少ない
- ・町内会に若者が参画しづらい
- ・町内会の仕事が面倒
- ・町内会のデジタル化が進まない

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・健やかで生きがいを感じられるまち
- ・災害時でも地域で連携する災害に強いまち
- ・町内会の困りゴトがデジタルで共有され、世代をまたいで解決できるまち

■八戸のイマに必要なコト■

① 5年後を見据えて若手市民活動団体を増やす

- ・八戸市市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいぐ※」をもっと身近に
- ・Z世代応援課の設置

② 町内会×（デジタル＋アナログコミュニティ）

- ・回覧板のデジタル化
- ・デジタル勉強会、体験会→デジタル人材の育成
- ・若い世代同士のコミュニティ×町内会

※『ふれあいセンターわいぐ』は、ボランティアや市民活動に「関心がある」「参加してみたい」「つくりたい」「発展させたい」と思う人達のためのサポートセンター

提言⑦ #八戸版ライフワーク #地域の人事部 で地域に参加

■困りゴト■

- ・給料が安い、休みがない
- ・子育て中の人の自由な時間がない
- ・都会と地方では、収入や就職先で格差がある
- ・学生と会社とのマッチングができておらず、収入面や娯楽面で都会を選択する
- ・地域の祭りに参加できない環境(仕事の繁忙期、会社の環境)
- ・祭り休暇取得や祭り参加の理解が得られない
- ・人材育成まで手が回らない零細企業

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・休日を生み出せるような支援
- ・魅力的な会社がたくさんあるまち
- ・お祭り期間中(三社大祭とえんぶり)に、気軽にお祭りに参加している状態
- ・CSR(企業の社会的責任)的な観点で企業の強みとなっている状態
- ・地域全体で人材育成ができるまち

■八戸のイマに必要なコト■

① 八戸版ワークライフバランス

- ・休みたいときに休みを取れる環境の普及
- ・休日のこどもの預け先の充実
- ・副業を支援するための金融教育サポートの実施

② 就職を希望する高校生や大学生への企業情報の発信

- ・八戸と学生をつなげる糸電話

③ お祭り休暇の導入(三社大祭、えんぶり)

- ・市役所でお祭り休みを実施。8/1と2/17は窓口を残して市役所を休む
- ・お祭り休暇を採用した企業に対して何かしらの支援等の実施

④ 会社を超えた合同研修会の実施

- ・複数の企業の合同研修会の実施
- ・地域内同期が集まる限定イベントの実施

提言⑧ #大学を市民の真ん中に 若者があふれるまちに

■困りゴト■

- ・若者の県外への大学進学が止まらない
- ・地元大学への入学者数の減少
- ・残りたいと思えるような地元の大学や就職先がないのが現状
- ・地元大学における地元就職率が低い
- ・バス代をかけて中心街まで行く理由がない
- ・学び直しができる場所がない、あるかどうか分からない

■まちのこのサキ■～理想がカナうまち～

- ・魅力がある大学には若者が集まる
- ・市として、大学や地元企業などと連携することで、若者が地元に着定する
- ・中心街が学生や若者でにぎわっている
- ・生涯に渡り学習する場があり、誰もが学ぶ意欲がある

■八戸のイマに必要なコト■

- ① 公立大学を八戸へ
 - ② 中心街への大学キャンパス設置
 - ③ 大学の講座が中心街で
- ・生涯学習や学び直し、スキルアップの講座の実施

4 八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議委員名簿

委員任期：令和6年4月～令和8年3月

分野	所属団体/役職名	委員名
産業 (1名)	八戸商工会議所青年部／会長	松橋 里実
教育 (3名)	八戸学院大学／准教授	井上 丹
	八戸工業大学／教授	鮎川 恵理
	八戸工業高等専門学校／准教授	山本 歩
まちづくり (5名)	八戸青年会議所／理事長	滝尻 善友
	海猫ふれんず	小田桐 咲
	株式会社金入／代表取締役社長	金入 健雄
	八戸ゲストハウストセノイエ	鈴木 美朝
	女性チャレンジ講座修了生	青木 智子
公募 (1名)	地域コーディネーター(ガイド)	栗林 志音

5 令和6年度まち魅会議スケジュール

月 日	内 容	場 所
4月22日(月)	委嘱状交付、提言の方向性について	八戸市美術館
5月17日(金)	テーマについて、アンケート内容の確認	長根屋内スケート場
5月31日(金)	アンケート内容の確認、現状と課題の整理	エスタシオン
6月17日～ 7月1日	アンケート調査の実施	—
7月8日(月)	アンケート結果の共有、提案施策の導出①	種差インフォメーションセンター
8月7日(水)	提案施策の導出②	南部会館
9月2日(月)	提言書のとりまとめ、市長への提言書提出	八戸ポータルミュージアムはっち
10月	事業化に向けた意見交換(予定)	—